



日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です



vol.42 至仏山、巻機山（日本百名山 57,58/100）

今年のゴールデンウィークは、どの山に登るか？ 昨年は、残雪が残る南東北の山々を楽しみましたが、この時期の登山は雪の状況次第のところもあり、年明けから天候に着目し続けていました。

案の定、今年は雪の量が少なく、遠方から行く私にとっては選択の幅が広がる年となりました。

但し、当たり前ですが、定期的に日本百名山に登っている事から、年を追うごとに未踏の日本百名山の数は少なくなっています。よって、残雪期に私のスキルで安全に登れる山を残しておかなければ、来年以降のこの時期に登る百名山が無い事態に陥ってしまいます。

そういった事情や、昨年のゴールデンウィークは山を詰め込み過ぎて非常に疲れた反省も踏まえ、無理をせず、焦らず、のんびり楽々登山をするよう計画しました。

ゴールデンウィークの移動は、高速道路の大渋滞が予想されることから、とにかく人の流れと逆方向、致し方なく同方向となる場合は深夜の移動を心掛けました。前回までの飛行機を使った週末登山もそうですが、やはり登山は山に登るだけではなく、この計画そのものが醍醐味の一つだと思っています。単純な移動時間だけであれば、Googleマップなどで簡単に算出できますが、実際はその通りにはなかなかいきません。登山旅を良いものとするためには、行き当たりばったりの感覚的なものではなく、最新の情報収集と綿密な計画、そして都度の臨機応変な対応（天候への対応も含め、数パターンを検討）が非常に重要となってきます。



小至仏山のトラバース道から見る至仏山の山頂方向

今回の登山は、特に渋滞にもハマらず、また事故・トラブルなどの不測の事態も起きなかった事から、移動は非常にスムーズでした。

では、今回登った二座について説明します。

まず、一座目は至仏山です。至仏山は、群馬県利根郡片品村に位置しており、尾瀬国立公園内にあります。位置的には、福島県や新潟県の県境にほど近い場所となり、山口県から行くとなるとなかなかアクセスしづらい場所にあります。以前、夏の尾瀬を訪れ燧ヶ岳に登り、いつかは残雪期の尾瀬を見たいと思い登らずに取っておいた山です。至仏山の標高は2,228m、蛇紋岩からなる山で貴重な高山植物が多く、花の百名山にも選定されています。



出典:ヤママップ地図

そして、二座目は新潟県南魚沼市に位置する巻機山（標高 1,967m）です。この山も、残雪期にずっと登ってみたいと思っていました。標高は2,000mにわずかに届きませんが、さすがに豪雪地帯の山、雪を被ったその山容は大変美しいものです。

至仏山に巻機山、登山をされない方からすると、そんな山あるの？って感じかもしれませんが、この時期の登山は大変人気で、正直、予想を超える登山者の数でびっくりしました。

いやはや、九州の山々や中国山地は、一部の人気がある山（久住山や阿蘇山、開聞岳、由布岳、大山など）を除いては人は少なく、少し山深いところに行けば1日歩いても誰にも会わない時もある中で、この人の多さは尋常でないと思ったと同時に、不測の事態が起きてもどうにかかなりそうな気もしてくるので不思議です。（登山は自己責任、自己完結が絶対です）。



巻機山 山頂直下の雪原 正面の平坦部の奥が山頂

では、今回の登山について報告します。

時はゴールデンウィーク、NEXCOの高速道路渋滞予測を見ながら登山口までのルートを検討します。ルートは、大きく分けて2ルートあり、山陽道で関西まで行き、そこからは以下のような二択となります。

- ① 名神自動車道→中央自動車道→長野自動車道→上信越道→関越自動車道
- ② 名神自動車道（もしくは舞鶴若狭自動車道）→北陸自動車道→関越自動車道

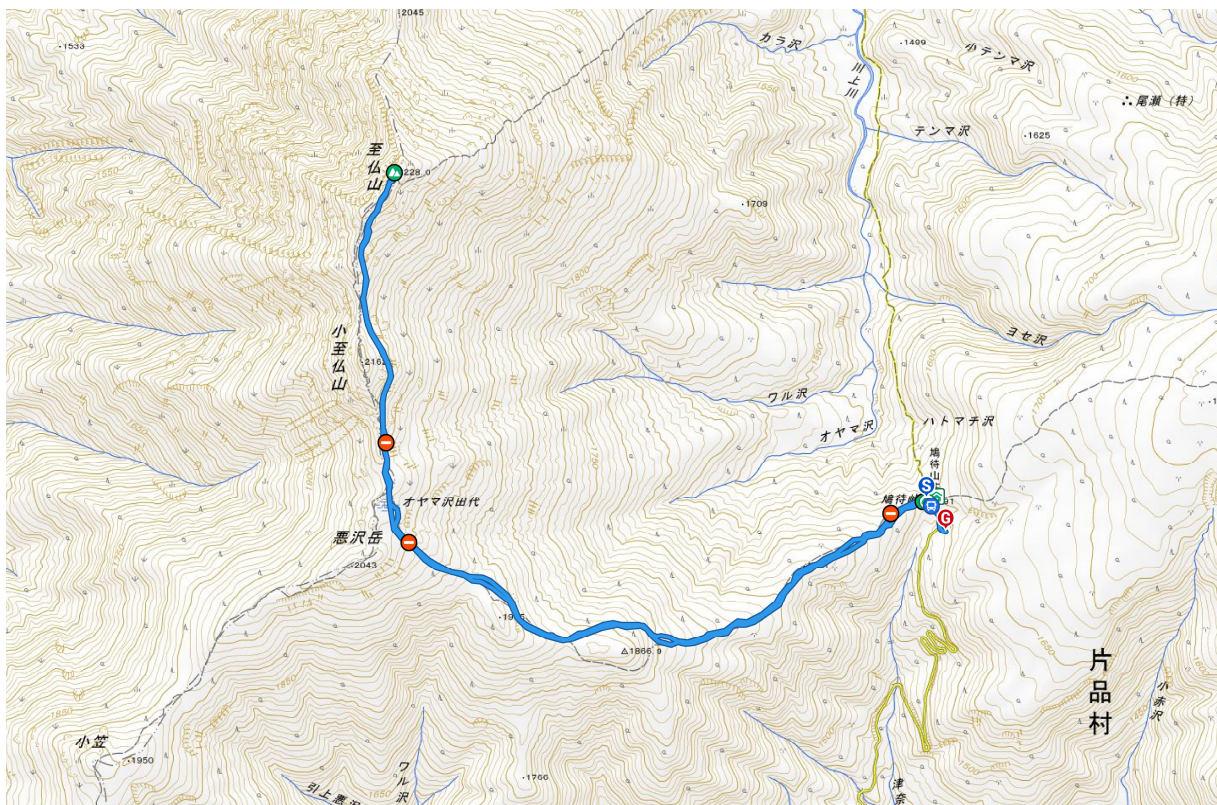
選択は、世の流れと逆方向、また都市部の通過時間を計算し、往路は①、復路は②を選択、一番の渋滞が予想される京都の大山崎IC～滋賀の天津SAで極力 渋滞に巻き込まれないように、自宅を午前1時に出発、通過時間20分程度の軽い渋滞には巻き込まれたものの、ほぼ予定通り（食事休憩等も含む）17時過ぎには群馬県利根郡片品村にある尾瀬第一駐車場に到着しました。

距離的には片道1,080kmあるものの、長野県に入ってから視界に飛び込んでくる、南アルプス、中央アルプス、北アルプス、そして頸城山塊、浅間山、八ヶ岳北部（蓼科山）など、冠雪した美しい山々が目を楽しませてくれます。また、群馬県に入ってから、妙義山に榛名山、赤城山などが見え、（アルプスも含め何度も見っていますが）飽きることはありません。

さて、尾瀬第一駐車場は280台止められる巨大な駐車場です。また、近隣には第二、第三駐車場もあります。私が到着したときは、ぱっと見30台程度でしたが、毎度のことながら車中泊をして朝起きてビックリ、駐車場は満車でした。

以下、登山データです。

【至仏山】



登山データ：距離 9.4km 累積標高上り 655m 登山区分 日帰り（ヤマップのデータを転記）

ルート上に通行止めマークがあるが、至仏山のこのルートは期間限定で通行可能

雪で覆われた時期以外は、植生保護の為、夏道が完全に出るまで通行禁止

【巻機山】



登山データ：距離 10.7km 累積標高上り 1,375m 登山区分 日帰り（ヤマップのデータを転記）

さて、至仏山へのアプローチですが、登山口のある鳩待峠までは大人の事情でバスか乗り合いタクシーでしか入れません。

始発バスは5時30分なので、4時過ぎに起床したのですが、外を見てびっくり、バスの乗車券売り場には長蛇の列、急いで支度して並びましたが、結局、チケットを買うのに30分以上かかりました。但し、バスは臨時便もあり台数は多く、始発便とほぼ差異が無い時間のバスに乗ることができ、午前6時には鳩待峠登山口に到着し登山を開始する事が出来ました。



駐車場は既に満車、さすがに人気の尾瀬（午前5時）



バス待ちの行列、自分の後ろにも長蛇の列が

登山道は、ほぼ雪道ですが、登山者が非常に多いことからルートを外すことはありません。

列を成す蟻のように、流れに乗って気楽に登っていきます。技術的にも難しい事はまったくなく、美しい尾瀬、そして燧ヶ岳や会津駒ヶ岳を見ながら気分良く登りました。



登山口にある鳩待峠休憩所



バスでの移動の為、スタートは他の乗客と同時に



樹林帯の中を気持ち良く登ります



目の前は小至仏山で、山頂はこのさらに奥



小至仏山をトラバースします



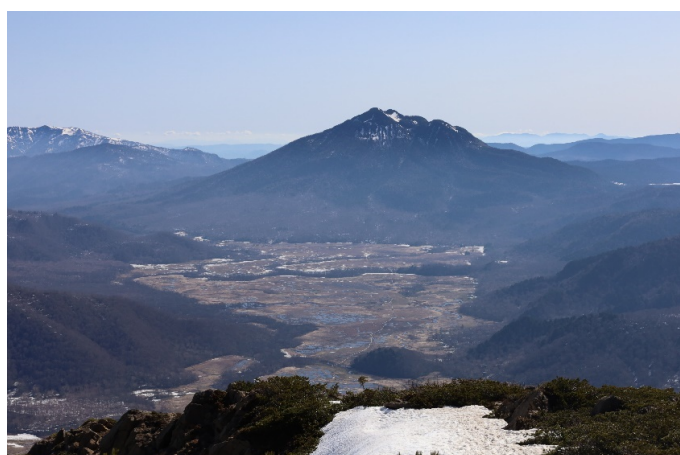
登ってきたルートを振り返って絶景に満足

午前7時50分、至仏山山頂に到着、風もなく眺望もあり最高の登山日和です。遠くには富士山も薄っすら見えます。この山域は、アルプスのようなダイナミックさはありませんが、山深く、多くの自然が残っており、とても好きな風景です。

さて、そうこうしていると山頂はどんどん登山者で埋まってくるので、さっさと下山します。この頃になると雪も適度に緩んできており、非常に歩きやすい状況でした。



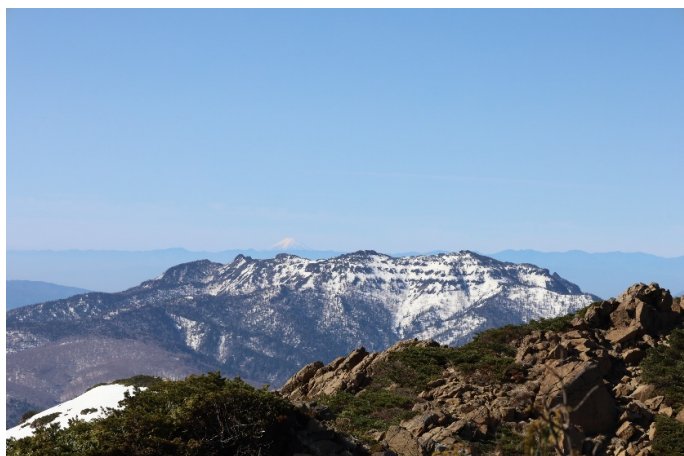
至仏山 山頂に到着



尾瀬ヶ原に燧岳、奥に会津駒ヶ岳



新潟方面、越後の山々



遠くに薄っすらと富士山も見えます

午前9時ちょうど、無事に鳩待峠登山口に到着、9時30分のバスに乗り駐車場へ向かいました。ちなみに、バスに乗っていたのは前日から乗り込み小屋泊をしていた男性3人組と私だけ、バスの運転手からは「のんびり尾瀬を楽しんだらと」笑いながら言われましたが、実は昨日は風呂に入っておらず、早く温泉に浸かりたい気持ちの方が上回っていました。

沼田市でゆっくりと温泉に浸かり、早めの昼食を食べて少し昼寝をした後、巻機山に向かいます。至仏山 → 巻機山の移動時間は2時間弱、結局、時間を持て余し15時には巻機山の登山口駐車場に到着です。この駐車場は管理人のおじさんが常駐していて、駐車料金は500円/日、車中泊をするので1,000円を支払おうとすると500円で良いという。それは悪いのと言っても、巻機山を楽しんで欲しいの1点張りで受け取ってくれませんでした。その後、管理人のおじさんとしばしの談笑、人の温かさに触れたとても良いひと時でした。

さて、17時にコンビニ弁当で晩ご飯とし18時前には寝ます。翌朝は5時スタートの計画、朝はのんびりなので寝る時間はたっぷりあります。但し、昼寝もしたし、こんなにも寝れるか？とも思いましたが朝4時まで熟睡、外を見ると案の定 駐車場は満車で、既にスタートしている人もいました。いつものように、朝食と言う名の高カロリーを強引に身体に詰め込み、着替えをして午前5時、他の登山者に混じってスタートします。

巻機山は至仏山と違い、スタート直後は雪は無いため、急登ではあるもののペースを上げて登って行けます。スタートして約2km、標高1,200mを少し超えたくらいから雪が出てきました。

雪は連日の晴天で腐った状態でしたが、夜の冷え込みで表面だけは凍っている箇所もありました。アイゼンを履くほどでもないので、つぼ足で進んで行きます。以降、標高1,700m付近までの樹林帯はずっと雪でしたが、日当たりの良い南側斜面の尾根に出ると雪は無く完全に夏道です。



スタートしてからは夏道の急登



少し歩くと雪が出てきました



目の前に二セ巻機山（9合目）



8合目を過ぎると完全に夏道です

夏道を登りきるとそこは頂上と思いきや、二セ巻機山（標高1,861m）です。ここからは山頂を目指し、一旦大きく下ってまた上るというテンションの下がる状況ですが、今は残雪期、ここから見る巻機山は本当に素晴らしい、美しすぎます。

と言う感じで、テンションが上がっていたので足取りも軽く、最後の登りに取り付きます。この登りが少し急でつぼ足で行くかアイゼンを履くかの微妙な所、他の登山者はアイゼンを装着して登っていたこともあり、大事を取って皆に倣いました。まあ、滑落しても死ぬことはなさそうですが、かなり下まで落ちていきそうなので、保険を掛けての装着です。



二セ巻機山の山頂



ここからいったん下り、右奥にある山頂を目指します



サングラスをしていないと目が焼けるほどの晴天



写真では伝わりにくいですが意外と斜度あり



振り返って 左上が二セ巻機山



御機屋（巻機山 山標柱）本当の山頂はまだ先となる
本当に紛らわしい、知らずにここで帰る人もいるらしい

午前8時、巻機山の山頂に到着、山頂からの風景はまさに絶景です。私が過去に登った山々の中でもトップクラスです。この絶景を見ながら、腰を下ろしのんびりと食事でエネルギー補給します。普段なら、食事が終わるとすぐに下山するのですが、いやはや腰に根が生えてしまったのか、動きたくありません。この美しい風景をずっと見ていたい、アルプスなどとはまた違った美しさ、もう言葉になりません。

と言っても、家までの帰り道は長いし、渋滞に巻き込まれないように帰りたい。また、ゆっくりと温泉にも浸かりたいので、後ろ髪をひかれる思いで下山を開始します。

午前10時半、無事下山。駐車場のおじさんに挨拶をして、南魚沼市内で温泉にゆっくりと浸かり予定通り北陸道経由で帰路につきました。



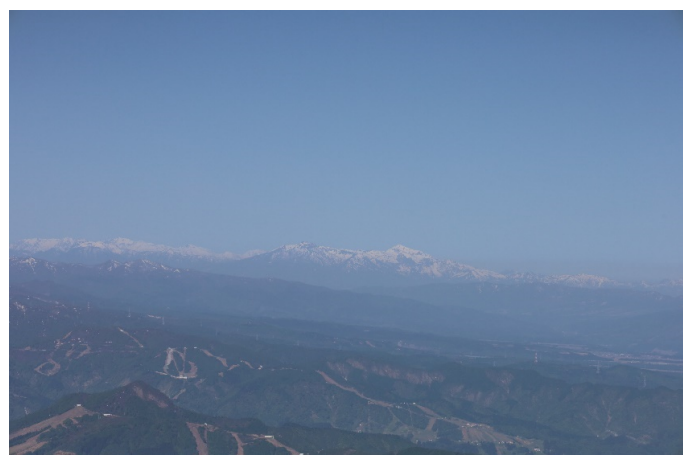
山頂まではもう少し、ここはほぼ夏道です



山頂到着 このケルンが山頂らしい



谷川岳方面 尾根が美しい



遠くには頸城山塊（妙高山、火打山など）



無事下山 他県ナンバーばかり



注意喚起の看板が多数 登山はすべて自己責任